

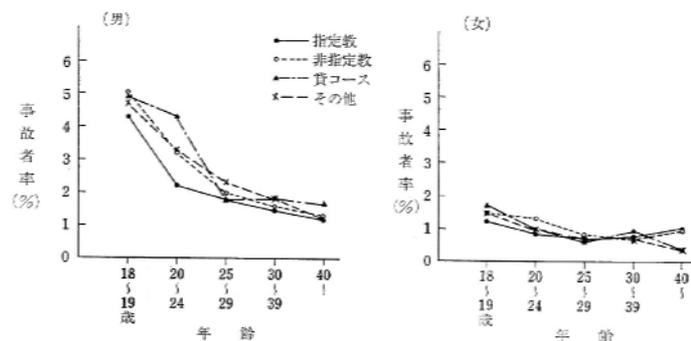
運転免許一般受験者の実態に関する調査研究（昭和 55 年度）

一般受験者の資質の向上対策に活用し、交通事故の防止に寄与することを目的として、一般受験者の学科知識修得の方法、運転練習の方法等の実態を調査し、一般受験と指定自動車教習所卒業による免許取得者の事故・違反の実態を比較検討した。

昭和 55 年中に普通免許を取得した 230 万人の 1 年間の事故・違反の状況を抽出し、練習区分別に男性の人身事故の事故者率を比較すると、指定教習所は 2.86%、非指定教習所は 3.39%、貸しコースは 3.02%、その他は 2.83% であり、いずれも年齢とともに順次低下している(図)。

女性の事故者率を比較すると指定教習所は 0.93%、非指定教習所は 1.14%、貸しコースは 1.07%、その他は 0.89% である。初回事故時の違反内容は、安全運転義務違反が過半数を占めるほか、徐行、優先通行、信号無視が多い。男性では酒気帯び、女性では歩行者保護違反が多く、特に貸しコースで練習した者は信号無視、徐行、追越し等の違反が目立つ。

図 初心運転者の 1 年目の事故者率



練習区分別に男性の違反者率を比較すると、指定教習所は 36.4%、非指定教習所は 42.0%、貸しコースは 42.2%、その他は 42.7% である。女性の違反者率を比較すると、指定教習所は 11.0%、非指定教習所は 13.2%、貸しコースは 13.6%、その他は 11.3% である。1 年間に 3 回以上の違反をした者を男性について比較すると、指定教習所は 6.0%、非指定教習所は 7.8%、貸しコースは 7.9%、その他は 8.5% である。初回違反の内容は、速度違反が 2 割台と目立って多いほか、男女共に通行禁止、徐行等の違反が多い。

昭和 54 年中の普通免許一般受験の合格者のうち約 6,000 人のアンケート調査の結果、仮免許学科試験の受験回数は、男性の 74%、女性の 78% が 1 回であり、同技能試験の受験回数は、男性の 59%、女性の 41% が 4 回以内である。本免許学科試験受験回数は、男女共に 1 回が約 70% であり、同技能試験回数は男性の 45%、女性の 34% が 1 回である。免許取得に要した費用は男性の 35%、女性の 5% が「5 万円以内」である。過去に普通車を運転できる免許を持っていたことがある者は 31.3% で、免許を失った理由は、取消が 79% である。

の一般受験の合格者のうち指定教習所で指導を受けたことがある者は 13.0% で、卒業しなかった理由は「費用がかかりすぎる」「自信が付き合格すると思った」「教習期間内に教習が終了しなかった」が多く、58% の者は仮免許取得後に退所している。指定教習所に入所しなかった者の入所しない理由は「時間内に通うことが出来なかった」「料金が高い」「行くまでもないと思った」「近くになかった」等の理由が多い。

の一般受験の合格者のうち非指定の教習所や個人指導員から指導を受けた者は 68% であり、非指定教習所等で指導を受けた期間は全体で「2 ヶ月未満」が 54% である。仮免許を取得するまでに非指定教習所等から指導を受けた時間数は 18 時間未満が 31%、仮免許取得後で 11 時間未満は 53% である。学科の勉強方法は「自分で」が 78% で、勉強に使用した本は、学科教本、試験問題集、交通の教則の順に多い。